読響 YOMIKYO 60 Yrs. 1962–2022

出会いと別れを繰り返し、
冬の旅はどこまでも続く。

RENAUD CAPUÇON

現代最高峰のヴァイオリニスト
フランスの俊英カプソンがベルクを弾く

©Paolo Roversi

ANNA RAKITINA

アメリカの三大オーケストラで成功を収めた
注目の新鋭ラキティナが日本デビュー！

©Robert Torres

2 FEB 2023

指揮＝**アンナ・ラキティナ**
Conductor= ANNA RAKITINA

ヴァイオリン＝**ルノー・カプソン**
Violin= RENAUD CAPUÇON

エレナ・ランガー：歌劇「フィガロの離婚」組曲（日本初演）
ELENA LANGER: Opera “Figaro Gets a Divorce” Suite (Japan Premiere)

ベルク：
ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」
BERG: Violin Concerto “To the memory of an angel”

チャイコフスキー：
交響曲第1番 ト短調 作品13 **「冬の日の幻想」**
TCHAIKOVSKY: Symphony No. 1 in G minor, op. 13, “Winter Daydreams”

※当初の発表から、曲目が一部変更になりました。

読売日本交響楽団 第625回 定期演奏会

2023 2.22〈水〉19:00 サントリーホール
Yomiuri Nippon Symphony Orchestra Subscription Concert No. 625
Wed. 22 Feb. 2023, 19:00 Suntory Hall

S ¥7,600　A ¥6,600　B ¥5,600　C ¥4,100

読響チケットセンター 0570-00-4390
（10時-18時・年中無休）

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成：文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会
協力：アフラック生命保険株式会社

新星ラキティナが
得意のチャイコフスキー作品などで日本デビュー

世界最高峰のヴァイオリニスト、カプソンがベルクの傑作を弾く！

2021年シーズンにニューヨーク・フィル、シカゴ響、ボストン響とアメリカの三大オーケストラを振り、
高い評価を得たアンナ・ラキティナが日本デビューを果たす。ラキティナは、ウクライナ人とロシア人の間に生まれ、
モスクワとハンブルクで学び、読響の元名誉指揮者ロジェストヴェンスキーの薫陶も受けた。
18年のマルコ指揮者コンクールで第2位となり、パリ管、ケルンWDR響などに客演して注目を浴びている。

彼女は今回、得意とするロシア音楽から、チャイコフスキーの交響曲第1番「冬の日の幻想」を指揮する。
チャイコフスキーの交響曲の中では後期の第4～6番に比べて演奏機会は少ないが、西洋音楽の“交響曲”という
形式に、何とか自国の音楽を融合させたいという若き作曲家の並々ならぬ意欲が表れている作品だ。
第1楽章から冬の荒涼とした大地を彷徨っているような孤独感に覆われているが、ロシア民謡風の哀愁あるメロディや
生き生きとした躍動するリズムが随所に現れ、最後は華やかなフィナーレが訪れる。
ラキティナは、確かなバトンテクニックで表情豊かに旋律を歌い上げ、劇的なサウンドを築くだろう。

1曲目には、1974年ロシア生まれで英国を拠点に活躍する女性作曲家エレナ・ランガーの歌劇「フィガロの離婚」組曲を
日本初演する。この歌劇は、ボーマルシェの有名な「フィガロの結婚」を下敷きとした20世紀のオーストリアの作家
ホルヴァートによる戯曲などを基に、D.パウントニーが台本を書き2016年に初演された。その後、シアトル響の委嘱により、
オペラのエッセンスを編んだ6曲から成る組曲版が作られた。戦争の不安などが表されながら、多くの打楽器や
アコーディオンが用いられ、タンゴの要素なども混じった華やかな作品だ。ラキティナは、同曲をボストン響とも演奏しており、
その手腕を存分に発揮するだろう。

現代最高峰のフランスの俊英ルノー・カプソンが、この1公演のために来日する。彼は、20年3月中旬からのパリのロックダウン中、
56日間連続して毎日ヴァイオリンの小品を自宅で演奏し、SNSを通じ世界中に配信して話題を呼んだ。その配信を楽しんだ
日本のファンもいるだろう。約3年半振りの来日となる今回、ベルクのヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」を弾く。
最晩年のベルクが、18歳で急死したマノン・グロピウスのために捧げたレクイエム的な渾身の傑作だ。近現代作品を得意とし、
充実した活動を展開して円熟味を増すカプソンは、持ち前の美しい音色と繊細かつ創意に満ちた
表現力を披露し、ベルク作品の奥深い芸術性へと迫る。

©Julia Piven

アンナ・ラキティナ 指揮

2021/2022シーズンにシカゴ響、ニューヨーク・フィル、ボストン響などを指揮して好評を博し、新世代で最もエキサイティングな指揮者の一人として注目を浴びている。現在は、音楽監督ネスソンスの元でボストン響のアシスタント・コンダクターを務めている。これまでにパリ管、ロサンゼルス・フィル、ケルン・ギュルツェニヒ管、フランス放送フィル、マルメ響、フィレンツェ五月祭管などを指揮し、今後もボルティモア響やハノーファー NDR北ドイツ放送フィルなどへ客演する。ウクライナ人の父とロシア人の母の元にモスクワで生まれ、ヴァイオリンを学んだ後、モスクワとハンブルクで指揮を学んだ。2018年ニコライ・マルコ指揮者コンクールで入賞し、2019/20 シーズンにロサンゼルス・フィルのドゥダメル・フェローに選ばれた。今回が日本デビュー。

©Simon Fowler

ルノー・カプソン ヴァイオリン

艶やかな音色と完璧なテクニックで世界各地の聴衆を魅了するヴァイオリンの名手。ソリストとして第一線で活躍しており、ハイティンク、バレンボイム、ドホナーニ、ハーディング、ロトらの指揮で、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ボストン響、ロンドン響、シカゴ響、パリ管などと共演を続けている。ザルツブルク音楽祭やルツェルン音楽祭など世界最高峰の音楽祭でも活躍。CDもワーナー・クラシックスなどから多数リリースし、数多くの賞を受賞。2013年に自身が創設したエクサンプロヴァンス・イースター音楽祭の音楽監督、16年からグシュタート冬音楽祭の音楽監督を務めている。フランスのシャンベリ生まれ。パリ国立高等音楽院に学んだ後、ベルリンでブランディスとスターンに師事。読響とは今回が3回目の共演となる。

読売日本交響楽団 第625回 定期演奏会

2023年2月22日(水) 19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 ／ A ¥6,600 ／ B ¥5,600 ／ C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証／25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390
＊10時−18時・年中無休／12/29−1/3を除く

読響チケットWEB http://yomikyo.pia.jp/
＊座席選択可／チケット郵送料無料

プレイガイド | サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 | 読響ホームページ | https://yomikyo.or.jp/